

広がる未来へ！ 「土壌医」を目指して

公益財団法人 日本特産農作物種苗協会 十勝特産種苗センター 村上暁美

1. 幼児保育から農業へ！

前職は20年ほど保育士として働いていましたが、より自然を身近に感じられる「農業」に従事したいという思いが強まり、現職である「十勝特産種苗センター」に勤務することになりました。



ここで、麦・豆類・馬鈴薯・ソバなどの「原原種」「原種」の生産技術を学んでいく中で「土づくり」の大切さを知り、知識を高めるため土壌医検定の参考書を手に取りました。初めは「良い物がたくさん穫れてほしい」という気持ちだったのですが、参考書を読み進めるうちに「作物が健康で生き生きと育ってほしい」という気持ちに変わっていきました。この頃から学ぶことが楽しくなり3級、2級と受験を重ね、土づくりのプロである「土壌医」を目指すようになりました。

2. 1級受験 そして2度の不合格

そして2020年度に1級受験。この時レポートは合格点の20点には満たず不合格。次の年再挑戦するも、またもや20点に満たず不合格。「もう無理かな」と半ば諦め、その後2度の検定試験を見送ることになりました。そんな折、土壌医の方との出会いが転機となり、職場の上司や同僚などにも支えられる中「もう1度挑戦してみよう！」という気持ちが湧き上がってきました。

3. 挫折からの3度目の挑戦

合格を勝ち取るには3つの関門があります。

①まず第1関門は50問の択一問題です。

とにかく時間が足りません。

これは、ひたすら過去問を解き、落ち着いてスムーズに解答していく要領を身に付けました。迷ってもペースは落とさずに解答し、最後に見返すクセをつけます。

②第2関門は記述試験です。

過去問を解いていく中で、理解しきれていないところを参考書に戻って見直し、簡潔な文章で書き留めるということを繰り返しました。

③そして最大の難関はレポートの提出です。

これは「普及」という項目のハードルを越えなくてはなりません。なかなか普及活動の機会を持てない私にとってはとても高いハードルでしたが「土壌医」の方々によるサポートのおかげで普及の機会を得ることができました。

そして2年ぶり3度目の挑戦で、還暦にしてようやく土壌医検定1級合格を勝ち取ることができたのです。



4. 「土壌医」として～

今年に入り「十勝土壌医の会」が設立され事務局長として北海道帯広会場での土壌医検定試験の設置・運営や、「土づくり」の出張講習受け入れなどを行っています。

今後は、営農される方々が「土づくり」の大切さを知り実践することで、作物の品質・収量性が高まり安定生産が実現できるようなアドバイスを行いたいと思います。そのためには、自身も学ぶことを忘れず研鑽を重ねてゆくことが必要と感じています。たくさんの方々に支えられ願いが叶ったことで、見える世界が格段に広がり、取り組めることが増えてきました。

今度は私が「十勝土壌医の会」を通して土壌医を目指す方々に普及の機会を提供し、合格のサポートを行うことが使命と考えています。

これから土壌医検定を受験される方、受験を考えられている方々。

「土」を知ることで作物を健やかな生長へと導くことができます。

大切な作物とともに自身も目標に向かって成長していけるとしたら素敵なことですね。

共に、広がる未来へ！！

